

「中央アジア＋日本」対話・第8回東京対話
「中央アジアにおける連結性改善に向けた課題と地域協力の可能性」
議長総括

平成28年3月2日

我が国は、中央アジアの発展には地域協力の促進が不可欠との観点から、2004年から「中央アジア＋日本」対話を立ち上げ、地域協力の「触媒」の役割を果たしてきた。同対話10周年にあたる2014年の第5回外相会合では、「次の10年」への展望として、対話の枠組みを実践的な協力を推進する場にもしていくことを確認し、昨年11月の第10回高級実務者会合（SOM）では、実践的協力の新たな優先的分野として「運輸・物流分野」に取り組んでいくことで一致した。

本年2月に中央アジア諸国の専門家を招聘して東京で開催した「専門家会合」においては、中央アジア側から、運輸・物流分野における各国の取組や課題について説明があったほか、この分野における地域・国際協力の重要性につき指摘があり、能力開発等の各種技術協力、追加的な道路・鉄道網整備、物流センター整備等のアイデアが示され、各国の具体的関心が明らかにされた。

今回の「東京対話」においては、日本側参加者から、中央アジアが抱える運輸・物流分野での課題に対する見方やこれまでの具体的な協力実績につき発表があったほか、情報通信技術（ICT）を活用した効率化や既存のインフラを活用した協力の可能性や制度面での改善についての必要性等について提案・提言がなされた。これに対し、中央アジア側参加者から、中央アジア域内外における運輸・物流分野での協力の現状や展望につき説明があったほか、アフガニスタンや南アジアなどの地域情勢が与える影響、運輸・物流分野の課題解決の方途やあるべき姿、今後に向けた様々なプロジェクト案やアイデアなどについて発表がなされた。さらに、フロアからは、中央アジアに関する活動や協力を携わっている有識者等を含め、大局的見地からの現状の問題点の指摘や多くの質問やコメント、提言があり、活発な意見交換が行われた。

これらの議論を通じて、以下の点が指摘された。

- ①中央アジアの運輸・物流分野における課題や潜在性について更に分析を進めるべきこと。
- ②それらの課題・問題点への解決・改善策や、活用する方策の探求を進めるべきこと。
- ③中央アジアの域内協力を更に推進すべきであり、日本が役割を果たすべきこと。
- ④中央アジアにおけるニーズに対して、日本の政府、団体、企業、研究所等が有する知見や技術、ツールとのマッチングを図るべきこと。

本年中に開催予定の「中央アジア＋日本」対話・第6回外相会合において、運輸・物流分野における今後の協力に関する方向性が示されるよう、本年2月の「専門家会合」、及び今回の「東京対話」での議論の内容を踏まえ、今月末に開催される第11回SOMにおいて各国より具体的な協力プロジェクトの提案を受けつつ、更に議論が深められるべきである。

農業分野での実践的協力を引き続き、「中央アジア＋日本」対話で運輸・物流分野を取り上げることを決定してから本日の「東京対話」に至るまでの過程で、中央アジア側より積極的な関与が得られ、「中央アジア＋日本」対話が地域協力推進のための実践的メカニズムとして機能していることを高く評価する。